



水害対応特集号！



栃木県内の NPO のネットワークで実施したフェンスにひっかかった枯草を除く「田川クリーンアップ大作戦」。市民の力による復興活動です！



災害ボランティアにはベルギーから参加してくれた方も。国境を越えた助け合いの暖かさを感じました。

立憲パートナーズ募集中！立憲民主党を共に歩んでくださるパートナーズの募集を行っております。詳しくは立憲民主党栃木県連 028-688-8555 までお問合せください♪

10月12日に関東地方に襲来した台風19号は栃木県内にも大きな爪痕を残しました。まず被災なされた皆様に立憲民主党栃木県第1区総支部としてお見舞いを申し上げます。

栃木県内で死者4名、住家の全壊70棟、半壊3908棟（11月20日時点）、という甚大な被害でした。宇都宮市内に目を向けても田川や姿川の越水が原因で、床上浸水607件、床下浸水331件（11月8日時点）の被害がでました。

水害発生以来、立憲民主党栃木県第1区総支部としても渡辺のりよし栃木1区総支部長を中心にボランティア活動や被災者への聞き取りなど、精力的に取り組むを進めてきました。11月22日現在、宇都宮市内では、街の中で濡れた畳やタンス等の被災財や土嚢袋の山はほとんど見かけなくなってきました。しかし、被災された方の生活がもとに戻ったとは言えない状況です。行政の役割として住宅だけでなく、中小企業や農業への支援も必要になってきます。また被災された方へのメンタル面でのサポートを地域福祉と連携しながら行っていくことも求められています。立憲民主党栃木1区総支部は引き続き被災地への支援を続けていきます！

渡辺のりよし

1983年宇都宮市生まれ。陽南中学校、宇都宮高校、早稲田大学政治経済学部卒業。在ジョージア・在タジキスタンの日本国大使館や東日本大震災の被災地での勤務、松下政経塾を経て、立憲民主党栃木県第1区（衆議院）総支部長に就任。



栃木1区総支部としての街宣活動。

家の中に水が入ったら？

床上浸水、床下浸水等、川から越水した水が家に入った後、泥をそのままにしたり、取り除かずに工事をしてしまうという方も見受けられます。しかし泥の除去と乾燥を行わないと、後になって家の中にカビや悪臭が発生して、生活に支障をきたす事例が水害被害のあった過去の被災地で報告されています。

まずは床下をはがして確認してみてください。泥が溜まっていればしっかり取り、消毒し、乾燥までさせる必要があります。自分で行うのが難しいという方、床下はがしや、床下に潜り泥出しをする専門技術をもったボランティアも各地で活動しています。まずは市の災害ボランティアセンターに相談してみてください。



浸水した家の床下。



乾燥が不十分だったためカビが発生している住宅。

グループ補助金

(中小企業支援)

平等原則の観点等から、行政は災害復興における商業への補助に慎重でした。しかし地域に甚大な被害をもたらした、東日本大震災がきっかけで新しい制度が生まれました。それがグループ補助金です。グループ補助金は、中小企業等がグループを形成して「復興事業計画」を策定し、県の認定を受けた場合に、そのグループに参加する事業者が行う施設復旧等の費用の支援をするという制度で、施設、設備の復旧費用等のうち四分之三を県及び国が補助し、残り四分之一を事業者が自己負担でねん出するという枠組みです。

災害が原因で廃業する中小事業者が増えることは、地域全体にとってもマイナスの影響をもたらします。その後事業をきちんと継続していける環境にあるかの見極めも重要ではありますが、支えるべきところは支えるという姿勢も今後の行政には求められており、その意味でグループ補助金は重要な制度となっています。

立憲民主党青年局

第1回全国大会

立憲民主党青年局（参加者は45歳以下の立憲民主党所属の議員、候補予定者）初となる全国大会が11月17日、18日に都内で開催され、栃木1区総支部からは渡辺典喜総支部長、中塚英範宇都宮市議会議員が参加しました。10代、20代の若者とお菓子を食べながらわいわい話すといった企画や、SNS利用講座、枝野幸男代表による講演、懇親会と盛りだくさんの内容で、全国の若い世代のネットワーク強化という意味でも有意義な大会になりました。



立憲民主党栃木1区総支部は現在、活動のお手伝いやポスター掲示にご協力頂ける方を募集しております。詳しくは、渡辺のりよし事務所 (n.watanabe.tochigi@gmail.com) or (https://twitter.com/n_watanabe214) までお問い合わせください。